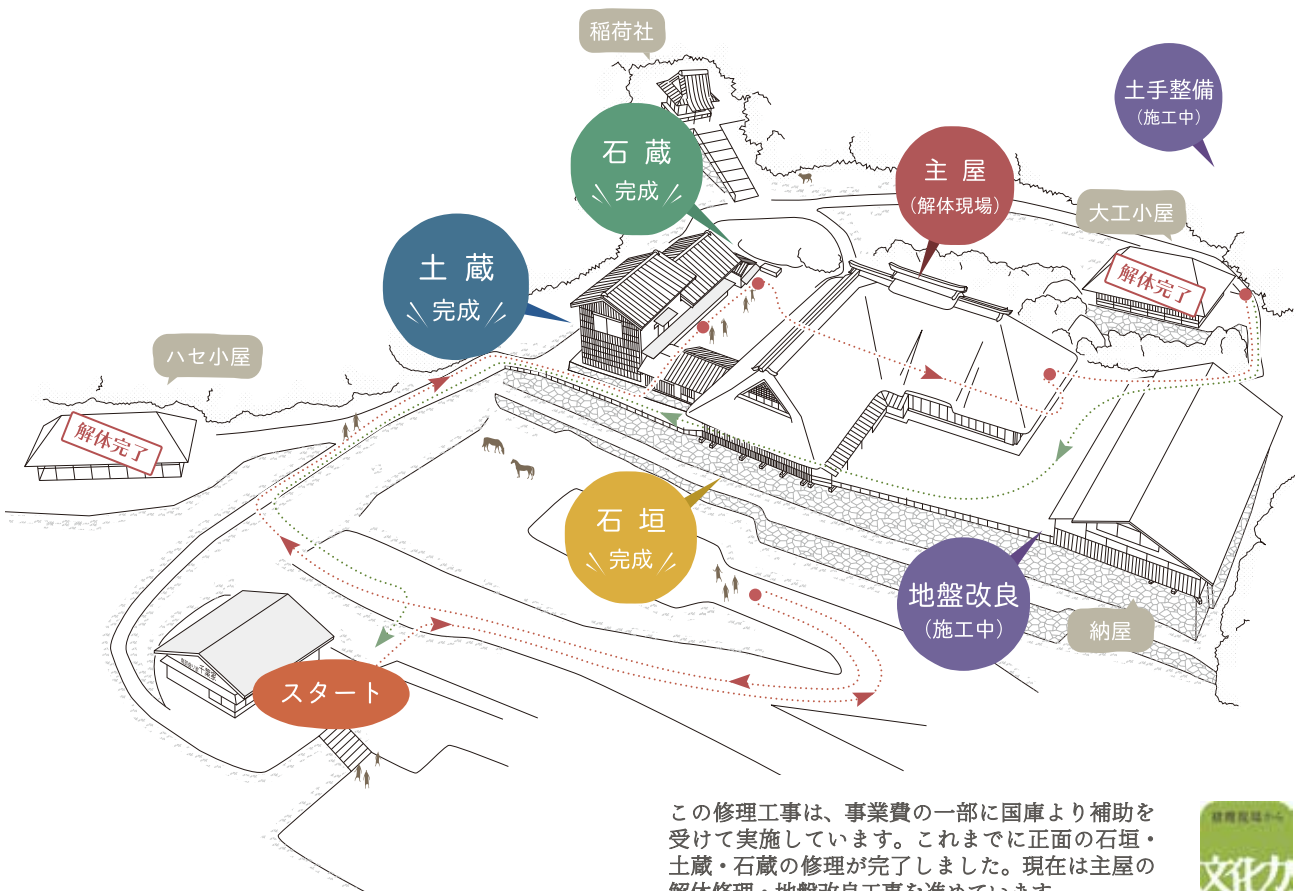


重要文化財
千葉家住宅
修理工事見学会

4

2020.11.01 sun

江戸時代、飢饉に苦しむ人々に蓄えを分け与えるための事業として
10年の歳月を費やし、建てられたと伝わる豪農・千葉家の屋敷。
いま『世紀の大修理』と銘打ち、再び10年をかけて甦らせています。



この修理工事は、事業費の一部に国庫より補助を受けて実施しています。これまでに正面の石垣・土蔵・石蔵の修理が完了しました。現在は主屋の解体修理・地盤改良工事を進めています。

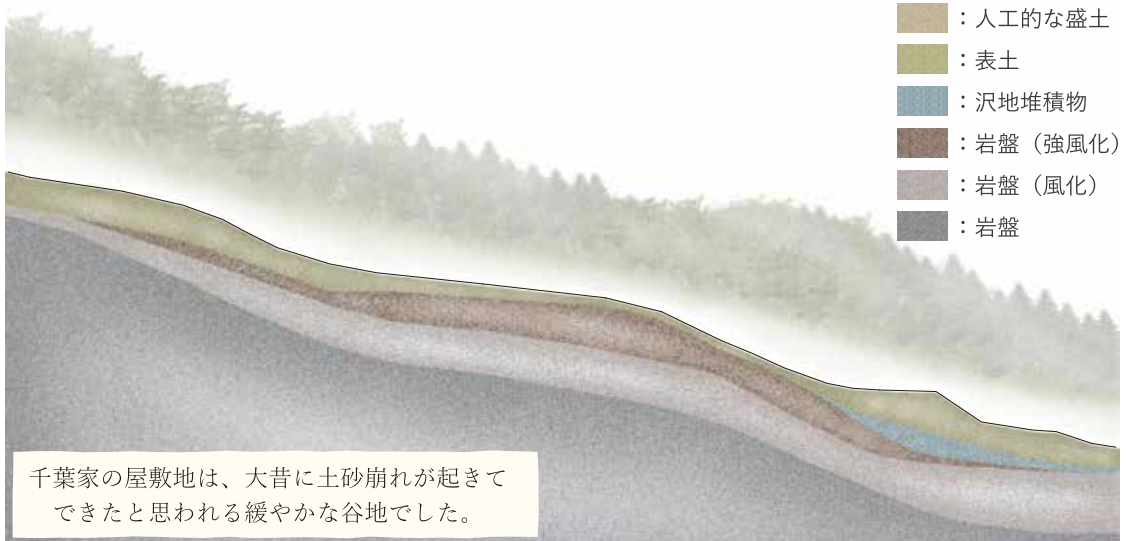
石垣



主屋～前庭の解体修理完了

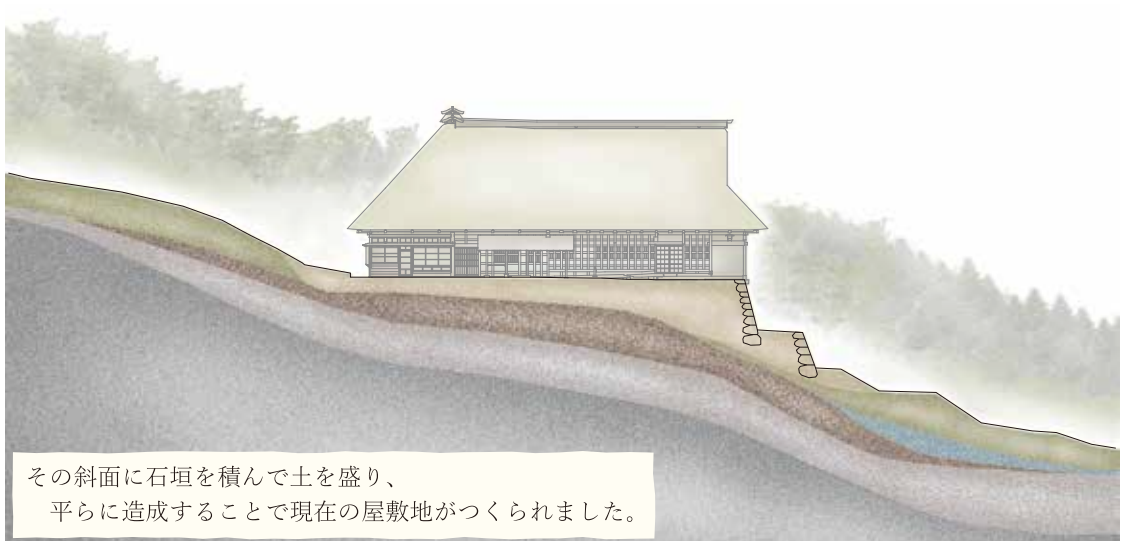


千葉家の屋敷地の成り立ち



石垣

千葉家の屋敷地の成り立ち





石に一つ一つ番号を付けて
形状や並び方を記録



主屋を支える「持送石」は、長さ4m、重さ1.7tに及ぶ



石垣の負担を減らすため
コンクリートの補強基礎を設置



石垣は熟練の石工が
昔と同じ技法で積み直し



「持送石」がコンクリートの基礎で支えられる形に

地盤改良



土蔵～主屋前完了／納屋周り施工中

地盤改良工事の計画



！ 屋敷への山水の流入を防ぐ！

土手の整備

地盤改良で余る改良土を利用して
山水対策の土手を補強・整備。

大工小屋

納屋

石蔵

土蔵

便所

主屋

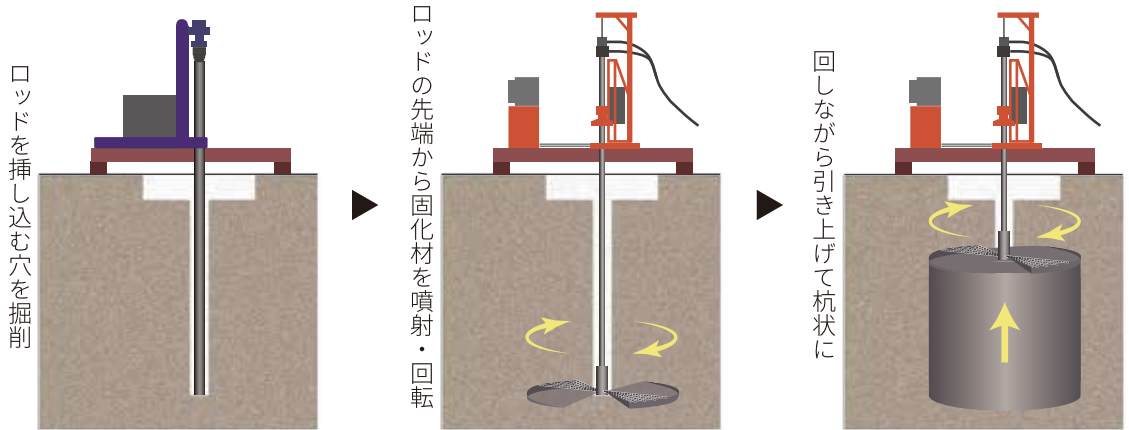
主屋・石垣コンクリート基礎

！ 盛土が崩れるのを防ぐ！

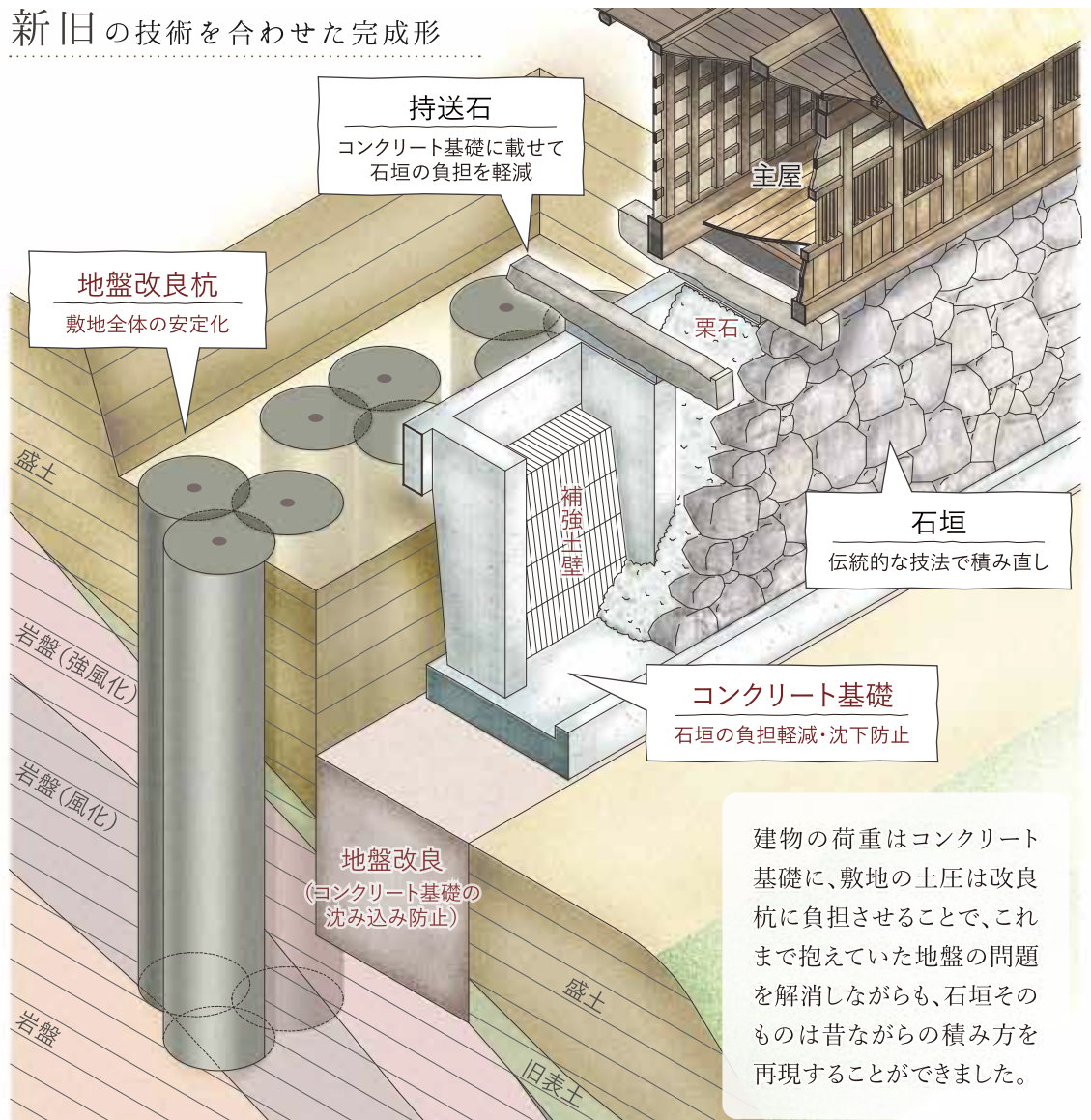
地盤改良杭

石垣のきわに3本1セットで造り
列状に並べて敷地全体を補強

地盤を強くする技術



新旧の技術を合わせた完成形



土蔵



大正2年(1913)建設
修理・補強工事完了



建物の特徴

雪囲い

風雪から土壁を守る板壁。
採光のため上げ下げ窓が付く。

建物の特徴

外付けの庇

庇は、土壁に埋め込んだ
L型金物に掛けているだけ。
万が一週りで火事が起きて
庇に火がついても、
蔵の中までは燃え移らない。

修理の工夫

床・壁面補強

一部の壁・床に
構造用合板と、
地震時の浮き上がりを
抑える鋼材を取り付け、
耐震性を高めた。

修理の工夫

コンクリート基礎

建物の沈下を防ぐ。
基礎石の下を少しずつ
掘りぬいて施工した。

建物の特徴

3階建と2階建が一体化

異なる階数の蔵が一体の構造になっている
とても珍しい造り。3階蔵は主に家財道具を、
2階蔵は主に食料を保管していたよう。

明治 45 年 (1912) に上棟し、大正 2 年 (1913) に完成した土蔵。
 それまであった天保 12 年 (1841) 築の 2 階建の蔵の部材を、一部再利用して建て替えられました。
 時の当主・福太郎の活躍で、千葉家が最も栄えたと考えられている時期の建物です。
 3 階建の立派な蔵ですが、実は仕上げが未完成のまま中断しているところも。
 さまざまな歴史が垣間見える建物です。

建物の特徴

板葺屋根と瓦屋根

建った当初、屋根は栗の板葺きだった。
 瓦が遠野で作られ始めた昭和 13 年に、
 板葺きは残したまま上に瓦を葺き重ねた。

建物の特徴

置屋根構造

蔵本体は上まですべて土で塗り固め、
 その上に独立した屋根を載せている。
 庇と同様、火がついても内部は守られる造り。

修理の工夫

壁の補修

壁に生じていたヒビは、
 同質の土を使って
 丁寧に埋め直した。



壁には、建設時に
 なぜか途中までしか
 仕上げられていない
 部分が…

建物の特徴

“きつつ”

2 階蔵には、穀物を蓄える“きつつ”が
 備え付けられている。上にあがる階段も実は…

完成した土蔵を大解剖！

石蔵



大正 14 年 (1925) 建設

修理・補強工事 完了



完成した石蔵を大解剖！

建物の特徴

閉鎖的な味噌蔵

1 階は土間で、味噌桶が置かれていた。
2 階は狭く、小さな窓があり、
物置として使われたと考えられる。

修理の工夫

鉄骨補強

石を積んだだけの構造は揺れに弱く、
地震で上部が崩れる恐れがあるため、
鉄骨フレームで補強した。



修理の工夫

コンクリート基礎

土蔵と同様、基礎石の下を
少しずつ掘りぬいて
沈下防止の基礎を施工した。

建物の特徴

“塩釜石”

壁は、宮城県塩釜市で採れた凝灰岩。
軟らかく加工しやすい上、多孔質なため
温湿度を一定に保つのに役立ったと考えられる。
大正 11 年に、釜石線の鉄道で運んできた記録が
残っている。今はもう生産されていない貴重な石。

大正 14 年（1925）建設と伝わる石蔵。
大正 11 年（1922）に宮城の産地から石を取り寄せた記録からも、
その時代の建物であることが裏付けられています。
味噌蔵として利用されたこの蔵は、温度や湿度を保つ実利的な工夫とともに、
各地から材料を取り寄せ、「江戸切仕上」の意匠も凝らされた、
小さいながらも手の込んだ建物です。

建物の特徴

古い瓦

石蔵の瓦は土蔵より古く、建設当初のもの。
当時、遠野では瓦をつくっておらず、
稗貫郡太田村（現・花巻市太田）の
瓦屋から入手した記録が残っている。

建物の特徴

屋根の置き土

屋根の野地板と瓦の間に、
土を盛って叩き締めた層がある。
石で覆われていない屋根面にも
断熱性を持たせる工夫と考えられる。



建物の特徴

“江戸切”

中央を
立ち上げ
粗さを残し
ノミ切り

修理の工夫

擬石補修

外壁の塩釜石は風化し、破損が広がっていた。
可能な限りオリジナルの材料を残すため、
悪くなった部分だけを削り取り、削った石粉を
モルタルに混ぜて塗る「擬石」により壁を補修した。

修理の工夫

入口補強

入口上の石にヒビがあり
落下の危険があるため
鉄骨の枠で安全を確保。

主 屋

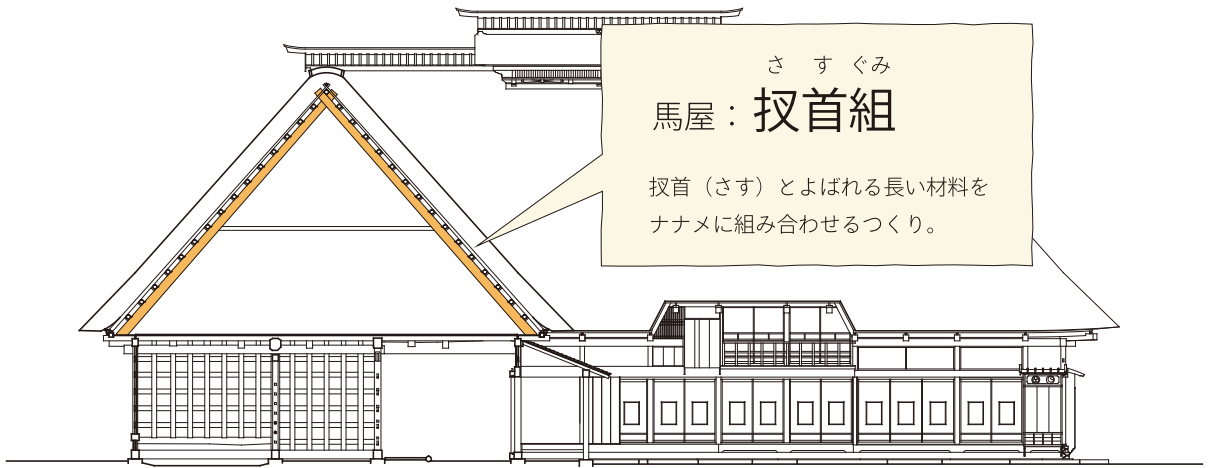


天保5年(1836)建設

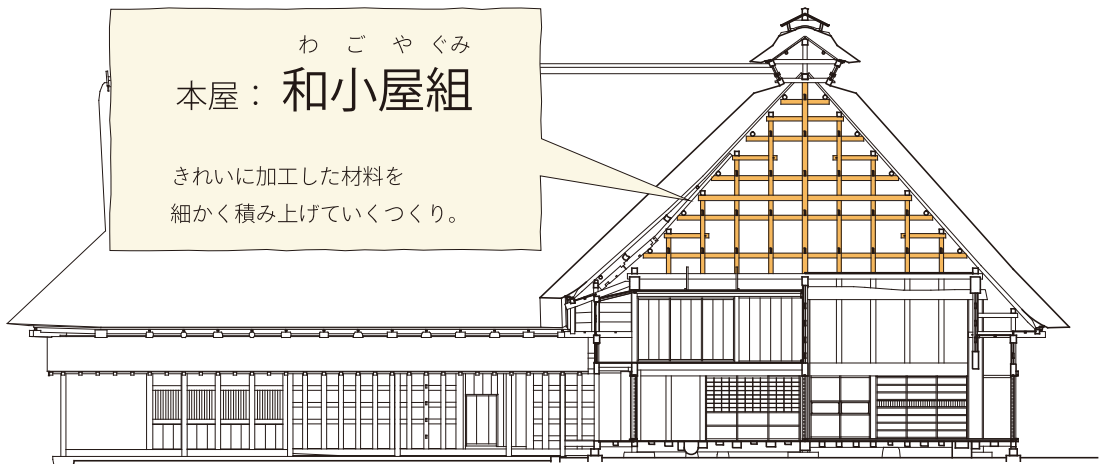
半解体修理中



構法の意味



主
屋



構
法
の
意
味



1階平面図

2階平面図

修理前の姿

(昭和49年大改修以降)

馬を飼わなくなり、代わりに増えた観光客に対応するため整備された姿。馬屋を展示室に変え、土間には観光客用の風呂やトイレが設けられていました。居室は、玄関と中廊下のついた現代的な間取になっていました。

復原される姿

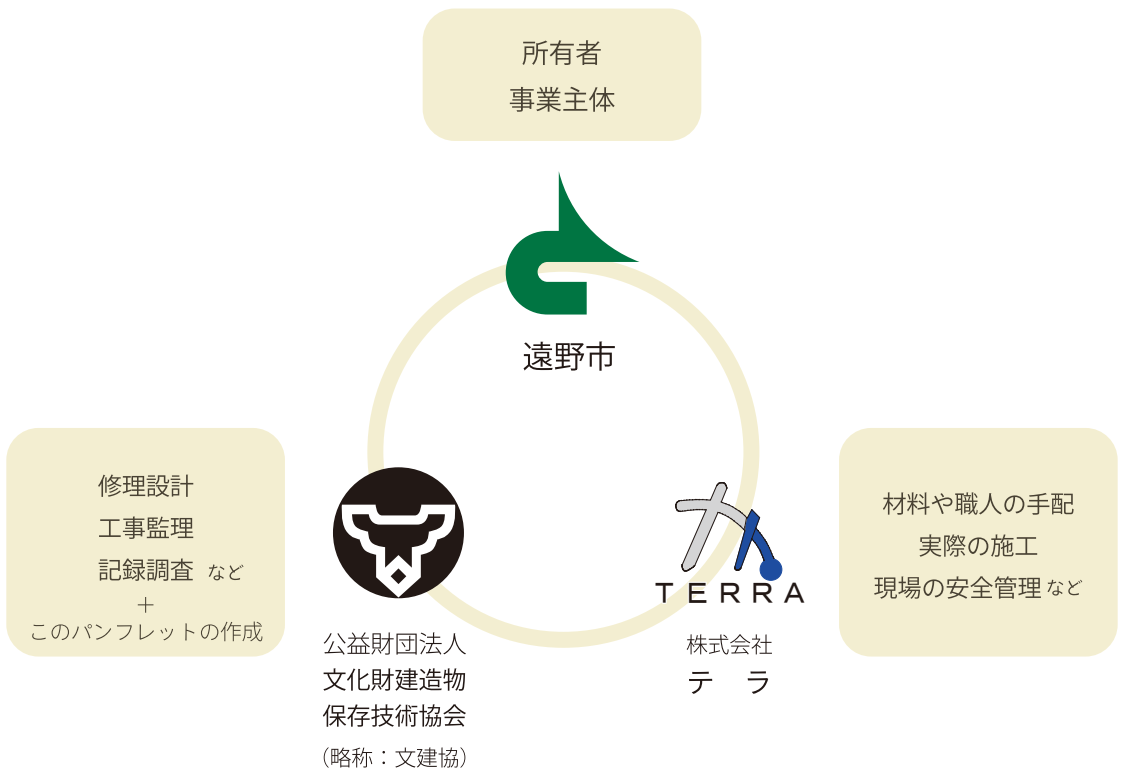
(明治末期～昭和初期)

千葉家が特に栄え、屋敷全体が整った時期の姿。江戸時代からの基本的な形式は保ちつつ、2階を若夫婦のために居室化し、それに伴い屋根を切り上げて、現在の外観が出来上がりました。



1階平面図

2階平面図



千葉家の保存整備は、修理・防災・活用の3つからなり、令和9年度にすべての工事を完了する予定で進めています。

遠野市公式 HP で毎月の工事の様子を紹介しています。

QRコードから



または

千葉家 修理

で検索